

平成20年度 LASDEC自治体セキュリティ支援室(LASC)の取組み

LASDEC自治体セキュリティ支援室(LASC)では、地方公共団体の情報セキュリティレベルの向上を支援するため、各種事業を実施。また、自治体CEPTOARとしての役割も担当。

【主な支援事業】

●情報セキュリティ遠隔診断(来年1月まで実施)

インターネットからアクセス可能な地方公共団体の公開サーバ等について、脆弱性の有無を診断し、対処方法を提示

●ウェブ健康診断の実施(今年度下半期に実施予定)

ホームページの改ざん防止等に資するため、ウェブアプリケーションの脆弱性の有無を診断し、対処方法を提示

●情報セキュリティ内部監査推進のためのアドバイザーを派遣

初めて内部監査を実施する地方公共団体に、監査の専門家を派遣

●情報セキュリティ研修講師派遣(今年度の受付は5月末で終了)

地方公共団体が主催する情報セキュリティに関する研修に対し、講師を派遣

●LASCメールマガジンを発行、ポータルサイトの運営

・最新のセキュリティニュース、自治体のセキュリティ対策の取組事例、セキュリティ知識問題などを内容とするメールマガジンを定期的にLGWANメールで地方公共団体に配信

購読申込みURL: <http://lascww02.lg-lib.asp.lgwan.jp/magazine/index.html>

・また、LGWAN上のポータルサイトにより、セキュリティ対策に必要な情報や研修教材などを提供

LASCポータルサイトURL: <http://lascww01.lg-lib.asp.lgwan.jp>

●自治体CEPTOAR(セプター)の業務

内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)から提供される重要インフラ分野で共有すべきIT障害等(例えばサイバー攻撃の発生や災害による被害が予測される場合など)の情報をLGWANメールで地方公共団体に一斉通知

(注)CEPTOAR: Capability for Engineering of Protection, Technical Operation, Analysis and Responseの略。第1次情報セキュリティ基本計画(平成18年2月2日)に基づき、IT障害の未然防止等のため政府等から提供される情報について関係重要インフラ分野で共有するため、各重要インフラ分野(情報通信、金融、航空、鉄道、政府・行政サービス(地方公共団体を含む)等の10分野)内で整備する「情報共有・分析機能」のこと。